

# Memento Mori

—メメント・モリ（正しくは、メメント・モライ）はラテン語で  
「死を想え」の意味・一日一日を大切に生きましょう—

2019年5月1日(水)発行

No. 81

NPO 法人  
山梨ホスピス協会  
〒400-0027 甲府市富士見一丁目2-12  
TEL 055-251-3505・FAX 055-251-6155  
E-mail:yhospice@basil.ocn.ne.jp  
Homepage:http://www.ymnshospice.  
server-shared.com

## 離陸より着地が難しい人生

副理事長 岩間孝吉



「飛行機は飛び立つときより着地が難しい。人生も同じだよ。」とは、ホンダの創業者・本田宗一郎氏の名言だという。(古今の格言にも同様のものがあると思う)

がん患者さんの抱えている怖れ、不安、悩みを受け止め、語られた「あなたの思い」を聞きつつ、そこに生まれる対話を通じて、がんの重荷から解放される——ここに医療者たちの望む一つの「癒し」の形があるのではないか、という趣旨の解説が「がん哲学外来」の案内チラシにもある。

かつて、緩和ケア病棟でのボランティア活動に参加する中で、患者と医療者のわずかな隙間に立ち会う機会があった。自らの死の近いことを感じている患者さんが、なお、生きることの意味をかみしめて表現している歌(句)が忘れられない。

「待つ日々も 生命輝く 雛祭り」

孫娘の健やかな成長を願って、ベッドサイドに小さな折り雛を飾っている。ボランティアが

折紙で、折り雛作りをお手伝いして出来上がった。その時の気持ちを一句にしたいと所望されたので、小さな色紙に筆書きして、お雛様の脇へ並べた。

病そのものが癒えるわけではないが、病床に臥す患者さんが、今出来ることを少しばかりお手伝いし、患者さんが願っていることを受け止めて、その思いが届くように(ここでは折り雛作りと、思いに共感しての俳句表現のお手伝い)ベッドサイドでお話を聞かせて頂くだけである。小さな会話の中に、自らの人生が語られ、今まで生きてきてよかった、生きてきた意味があったと思うと語られる時、決して、自己満足だとか、小市民的だ、とか言えるわけがない。

山梨ホスピス協会の標題「メメント・モリ」は、死を想え、死を忘れるな、という否定的な表現であるが、紛れもない真実である。長いようで短い人生、生のはかなさ、死の確実さを知る時、自分がどう着地するのか、誰もが問われている問い掛けでもある。今という時と与えられている小さな力を、どう使って生きて行くかが、私たち一人一人に問われている。

### がんサロン『ぶどうの会』

がん患者やご家族が自由に集まり、そして気兼ねなく語り合える場として作られました。がんや不治の病を抱えていろいろな悩みや不安など、同じ病気をもつ仲間同士が語り合い、学びあい、共感することで前向きに生き生きと過ごすことを目標とした交流の場です。

★と き：第2・第4水曜日 午後1:30～2:30

★ところ：山梨ホスピス協会事務所



### 第81号目次

- ・離陸より着地が難しい人生  
岩間孝吉 … 1
- ・研修講座  
「年を重ねて死をどんな風にとらえるか」 長山忠雄 … 2
- ・横山宏理事長  
『山上の光賞』受賞 …… 4
- ・事務局だより・編集後記 …… 4

## 2018年度 研修講座

2019年2月9日(土)  
於：山梨県立中央病院多目的ホール

# 年を重ねて 死をどんな風にとらえるか

長山 忠雄 (千葉県がんセンター名誉センター長)

## 1. 参加者の感想等

- 80歳を過ぎ、現実の問題です。ありがとうございました。
- 人生について考えるチャンスを恵んで下さり、ありがとうございました。
- なかなか得がたいテーマの講演で、このようなテーマでのお話を聴きたかったので、たいへん良かったです。死について、いろいろな本を読んで、自分なりに、納得した死生観を持ちたいと思っています。
- 自から望む死に方を、これから考えていきたいと思えます。きっかけになった講座、長山先生、ありがとうございました。
- 誰もが、向き合う「死」について、話し合う機会があまりないので、よい学びになりました。死に向かう人に、話題をふるのが難しいところ。
- 私もがんを何回か手術して、今回はダメかなと、そのつど思いながら、生命を頂いております。がんになって始めて死を考え、死を考えるについて、今の生を考えた時、死ぬまでは生きるわけですから、生を今この時を無駄にせず、充実した時間で生きていきたいと思えます。今日も良い時間を頂いて、ありがとうございました、感謝申し上げます。
- 興味深い内容でした。もっといろいろなお話を聞いてみたいと思いました。また機会があれば、受講してみたいです。高

齢の家族がいますが、自分が死ぬことや、病気になることを、とても恐れているので、今は元気ですが、何かあった時に支えていけるか、ちょっと心配しています。

- プリントを読むだけで、少しがっかりした。もう少し『ナマ』の話を知りたい。家に帰って、ゆっくり繰り返しプリントを読むつもりです。

## 2. 参加者アンケートから

### (1) 今日の研修講座のテーマについて

A	非常に良かった	5
B	良かった	14
C	普通	4
D	あまり良くなかった	0
E	良くなかった	0

(計 23)

### (2) 死生学・死生観について

A	良く理解できた	6
B	どちらかという理解できた	9
C	普通	6
D	どちらかという理解できなかった	2
E	理解できなかった	0

(計 23)

### 3. 〈研修講座配布資料の概要〉

#### 1) 死をどんな風にとらえるか

- \* サマセット・モーム
- \* 死生学
- \* 人間の死の捉え方・認識の仕方
  - ① 身体的・生物学的な死
  - ② 精神心理的な死
  - ③ 社会的な死
- \* 死の人称 (死者に対する対応の仕方)
  - ① 一人称の死：自分の死
  - ② 二人称の死：あなたの死
  - ③ 三人称の死：他人の死
 一人称の死：個人の死生観が問題となる

#### 2) 日本人の死生観

死を通じた生の見方を言う。宗教によっては生死観(ショウジカン)とも云う。

具体的な型：

- ① 人は死んだらどうなるかどこに行くか
- ② 死後が死者をどうとらえるか
- ③ 生についての人々の考え方や理解の仕方など
- ④ 生きるとは何か、死とは何か
  - \* 加藤咄堂「死生観：1904」
  - \* 山本俊一「死生学：1988」
  - \* ボルテール：フランスの思想家
  - \* 上智大学のデーケン先生「死の準備教育」
  - \* 日本固有の死生観
    - i) 魏志倭人伝
    - ii) 古事記
      - ① 祖霊 (良い霊)
      - ② 怨霊 (悪い霊)
  - \* 個人が神として祀られる条件(柳田国男)
  - \* 中国由来の死生観：道教／儒教
  - \* 武士道：「葉隠」
  - \* 切腹
  - \* 殉死：乃木希典1912
  - \* 諫死 (かんし)
  - \* 憤死
  - \* 仏教：浄土宗／禅宗

#### 3) ひとりひとりの死生観

死が、発達・進化した人工的な医療技術環境の中で管理されるような状況になっている現在、自分の死生観を考えることは、生きて行く上で、重要度が増していると考えます。

個人の死生観は、自由に形成されるものでありますが、それらは社会的・倫理的な制約の下にあります。社会的・倫理的な検討が必要です。

○横山宏先生の死生観：御著書『生命をみつめて～感謝でつづるわが人生～』2010年より、

◆近頃思うこと(私の死生観)同書p.395-399

〈一部抜粋〉——

自らが望む死に方を実現するには、どう生きれば良いのでしょうか。生命は大切に、決して粗末にはしてはなりません。健康維持には最善の努力を尽くしながら、やがて必ず迫りくる死を静かに受け容れるのが良いかと思っています。そしてその時まで残された一日一日を大切に過ごしながら悔いが残らないよう、大切に精一杯、生き抜きたいと思っています。

不治の病に罹り、自立生活が不能となりましたら、苦痛だけは緩和してもらい、積極的な治療は御免蒙りたいと思います。食事が口から摂取できなくなった時には経管栄養や中心静脈栄養などは望みたくない心境です。突然死も良いのですが、身の整理などもあり、少々の余裕も持ちたいと思いますので「がん」による死がよろしいのではないのでしょうか。疼痛があれば緩和して貰い、意識があるうちに、ほぼ仕事に目処をつけて諸処に感謝しながら旅立ちたいものです。—— (以下略)

## 横山 宏 理事長 『山上の光賞』 受賞

この度、当協会理事長の横山宏先生が「山上の光賞」を受賞されましたので、皆様にご報告し、一緒にお喜びしたいと思います。

「山上の光賞」は『日本の広範な健康・医療・医学分野において素晴らしい活躍をし、よりよい社会を築くことに貢献している80歳以上の方を顕彰するプログラム(山上の光賞HPより)』です。

私がこの賞があることを知ったのは平成31年に入ってからですが、ある学会のメーリングリストで、推薦を呼びかけておりました。この情報に触れた刹那、横山先生こそこの賞にふさわしいと「ピーン」と感じました。

この賞に先生を推薦したい旨を伝えたところ、おずおずとですがご承諾下さったので、申込期間が短いなか、推薦書を作って申し込みました。その時に先生の経歴を見返して、改めて山梨における医療への功績の大きさに気付いた次第です。

山梨ホスピス協会を初期から率いて、山梨県立中央病院へのホスピス設置を後押ししたことは皆様よくご存知ですが、緩和ケアに関する啓もう普及活動だけでなく、山梨県の看護師教育にも尽力され、山梨県医療に確保たる地歩を築きあげました。さらに、90歳を超える今年になって、様々な名誉職を傍らに置いて、一医師として診療するという原点に戻るといふ姿勢には頭が下がります。

横山先生が、このようなびったりの表彰を受けられるのはうれしい限りです。改めてこの言葉を贈ります。

「山上の光賞を受賞され、本当におめでとうございます。」

(文・阿部文明)

### ◆お知らせ◆

第27回通常総会を下記のとおり行います。

お忙しいとは存じますがご出席いただけますようお願いいたします。

日時 2019年6月30日(日) 午後13時30分  
場所 山梨県立中央病院 2階 多目的ホール



### 編集後記



——「ホスピス運動」は充実した生を考える機会を与えるとともに、社会の一員としての自分の人生を積極的に捉え直し、生を最期まで自分で選択しようとする運動だと私は思います。——

会報「メメント・モリ」第1号、1992年の巻頭言である。1992年(平成4年)6月13日、前身の山梨ホスピス研究会が発足して以来、今日まで27年にわたって山梨ホスピス協会の活動を続けていくことができ、感謝である。

この間、多くの志を同じとする方々と協力して、共に学びつつ、緩和ケア病棟設置実現に向けた行動等を起こし、実現していくことができた。運動を継続することができた私たちは、何か目に見えない大きな力に導かれて、ここまで来られたような気がする。

始めたころ、まだ若かった私たち自身も高齢の域に達して、この運動をどう継続し、バトンタッチするかを問われ、決断しようとしている。皆様方のご協力に感謝しつつ、もう少しだけお力添えをお願いする次第である。(岩間孝吉・記)